

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生涯にわたり学習する基盤を培い、自らの個性を生かしながら主体的に課題を解決する力を育み、生徒の可能性を伸長する学校をめざす。
 1 急速に変化する社会に対応できる確かな学力を育成し、思考力・判断力・表現力を高める機会を与えることで、個性を伸ばす教育の充実を図る。
 2 自ら将来の夢と志を描き、自己の可能性を伸ばすとともに、自らの力で進路を実現し、地域や社会に貢献できる人材の育成をめざす。
 3 生徒が安全で安心して高校生活を送れるよう、それぞれの思いや環境・状況の違いを理解し、自他の生命や権利を大切にすることを意識の醸成に努める。

2 中期的目標

普通科総合選択制の集大成と「部活動の盛んな進学をめざす総合学科づくり」を目標に、以下の5点を学校の中期的目標とする。

1 思考力・判断力・表現力など確かな学力を育成するため、教員の授業力向上を図る。
 (1) 授業力向上委員会が中心となって、「学校全体でめざす授業」を明確化し、「主体的で対話的な深い学び」を実践するため、アクティブラーニングやユニバーサルデザインの授業に関する情報を共有し活用する。
 (2) HR教室の電子黒板機能付プロジェクタやアクティブラーニングルームを有効に活用して、学校全体でICT機器を活用したアクティブラーニングやユニバーサルデザインの授業実践をすすめる。
 (3) 授業アンケートを有効に活用するとともに、研究授業や教員同士の授業観察等の活性化を図る。
 生徒向け学校教育自己診断「楽しくて、わかりやすい授業が多い」を毎年3%引き上げて、令和4年度には70%以上にする。(平成29年度64.6%、平成30年度67.2%、令和元年度63.3%)

2 夢や希望の実現に向かって主体的に学び努力するキャリアデザイン力を育成するため、さらなる進路指導の充実を図る。
 (1) キャリアサポートルームを有効に活用して、「10年後の自分」を考えさせる。
 (2) アクティブラーニングルームを有効に活用して「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」、LHR等で系統的なキャリア教育を実践し、本物や最先端に触れさせる。
 (3) 学校設定教科・科目「軌跡」「深学」を活用するとともに、進学講習を組織的に行う体制を充実させ、生徒の希望する進路の実現をめざす。
 進路希望実現率90%以上を維持する。(平成29年度85.5%、平成30年度88.5%、令和元年度93.1%)
 難関大学(関関同立・産近甲龍)の合格者を令和4年度には20名以上をめざす。(平成29年度8名、平成30年度5名、令和元年度4名)

3 基本的な生活習慣を確立させ、社会人基礎力(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)を育成するため、生徒指導の徹底と生徒の自主性の伸長を図る。
 (1) 基本的な生活習慣やマナー指導について、生徒指導部、学年、進路指導部が一体となって取り組む。
 (2) 自分の考えを他者に伝え表現するコミュニケーション力を育成するため、HRや委員会・生徒会、学校行事のさらなる活性化を図る。
 (3) 部活動への参加を奨励して、目標に向かって努力することの大切さを学ばせる。
 (4) 地域連携の一層の充実を図り、自主的・積極的に社会に参画する意識を醸成する。
 年間遅刻者数を毎年5%ずつ減少させ、令和4年度には1000以下にする。(平成29年度2105、平成30年度1631、令和元年度1273)
 生徒向け学校教育自己診断「学校生活は充実している」を令和4年度には90%以上にする。(平成29年度89.2%、平成30年度86.4%、令和元年度86.4%)
 部活動加入率を毎年2%ずつ引き上げて、令和4年度には65%以上にする。(平成29年度49.5%、平成30年度55.2%、令和元年度60.1%)

4 多様な考え方や立場を理解し、他者と協力・協働する社会形成能力を育成するため、人権教育や特別支援教育のさらなる充実を図る。
 (1) SNSなどの新たな状況にも対応した高校3年間を通した人権教育を推進する。
 (2) 特別支援教育に関しては、高等学校支援教育力充実事業のサポート校としての取組みを充実させる。
 (3) 生活看護実習室を活用して、知的障がい生徒自立支援コース設置校として取り組んできたユニバーサルデザインの授業実践をあらゆる教育活動に広げていく。
 生徒向け学校教育自己診断「学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い」を毎年2%引き上げて、令和4年度には85%以上にする。(平成29年度80.4%、平成30年度82.9%、令和元年度79.6%)

5 魅力ある総合学科づくりに全教職員で取り組み、「部活動の盛んな進学をめざす総合学科」を地域に定着させていく。
 (1) 高大連携を進めるとともに、特色ある教育課程の編制を行うなど、カリキュラム・マネジメントに力を入れる。
 (2) 中高連携をさらに進めるなど、広報活動を活性化させる。
 (3) 全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化により教職員の時間外勤務の削減を図るなど、働き方改革に取り組んでいく。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力育成のための教員の授業力の向上	<p>(1) 授業力向上委員会を中心として、「めざす授業の全体化」を図り、授業の「なぎさスタンダード」を確立する。</p> <p>(2) 学校経営推進費を活用して設置したHR教室の電子黒板機能付プロジェクタの活用</p> <p>(3) 研究授業や教員同士の授業観察の活性化</p>	<p>(1)</p> <p>ア 授業力向上委員会を定期的開催し、アクティブラーニングやユニバーサルデザイン等に関する情報を共有し、授業の「なぎさスタンダード」を確立する。</p> <p>イ 府教育センターのパッケージ研修を活用して、学校全体で「めざす授業」の共有化を図るとともに、「楽しくわかりやすい授業」を実践して生徒の学習習慣の定着を図る。</p> <p>(2) モデル授業者や各教科代表者によるICT機器を活用した研究授業と研究協議を実践する。</p> <p>(3)</p> <p>ア 授業アンケートの振り返りシートを教員全員が提出する。</p> <p>イ 全体の研究授業を年間3回行うとともに、授業観察シートを教員全員が提出する。</p> <p>ウ 近隣中学校との授業交流をさらに活発化する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「学 いろいろ工夫されている授業が多い」2%増加 (R01 73.6%)</p> <p>イ 「学 楽しくて、わかりやすい授業が多い」2%増加 (R01 63.3%)</p> <p>(2) ICT機器活用に関する教職員研修の実施 (R01 2回)</p> <p>(3)</p> <p>ア 授業アンケートの学校全体の平均値上昇 (R01 3.27)</p> <p>イ 全体の研究授業3回以上 (R01 1回)</p> <p>ウ 近隣中学校との授業交流参加人数の昨年度以上の増加 (R01 30人)</p> <p>教員の授業観察件数の昨年度以上の増加 (R01 221件)</p>	
キャリアデザイン育成のための進路指導の充実	<p>(1) アクティブラーニンググループやキャリアサポートルームを有効活用したキャリア教育の実践</p> <p>(2) 進路実現に向けた本物・最先端に触れる活動の充実</p> <p>(3) 進学講習の充実による希望する進路の実現</p>	<p>(1)</p> <p>ア 進学説明会をアクティブラーニンググループやキャリアサポートルームで開催するなど、進路指導やHRで有効に活用する。</p> <p>イ 3年間トータルの系統的なキャリア教育の策定</p> <p>(2)</p> <p>ア 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」、LHR等を通じて、「卒業生に聞く」「TRYOUT」等の進路実現に向けた活動を充実させる。</p> <p>イ 新たな大学連携先を開拓するとともに、アカデミックインターンシップを実施する。</p> <p>ウ 英検等、各種検定の受験、資格取得の促進</p> <p>(3)</p> <p>ア 学校設定教科・科目「軌跡」「深学」を活用するとともに、組織的・体系的な進学講習を計画的に行う。</p> <p>イ 一つ上をめざす進路志望を勧奨しつつ、生徒の希望進路の実現を支援する。</p>	<p>(1)</p> <p>アイ 進路希望実現率の2%増加 (R01 93.1%)</p> <p>(2)</p> <p>ア 「学 進路実現に関する指導は適切に行われている」2%増加 (R01 83.9%)</p> <p>イ 大学との連携活動回数5%増加 (R01 95回)</p> <p>ウ 各種検定、資格取得者数の昨年度以上の増加 (R01 36名)</p> <p>(3)</p> <p>ア 「学 学校は授業以外でも学習する機会(講習会・検定など)を提供している」2%増加 (R01 83.2%)</p> <p>イ 難関大学(関関同立・産近甲龍)の合格者20%増加 (R01 4名)</p>	

府立枚方なぎさ高等学校

<p>社会人基礎力育成のための生徒指導の徹底と生徒の自主性の伸長</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立とマナー指導の徹底</p> <p>(2) リーダーの養成及びHRや委員会・生徒会、学校行事の更なる活性化</p> <p>(3) 部活動の活性化</p> <p>(4) 地域連携のさらなる充実</p>	<p>(1) ア 遅刻指導や頭髪・服装指導などを粘り強く行い、基本的な生活習慣を定着させる。 イ 学年連携会議等で、生徒指導や行事などの学年間の調整を図る。</p> <p>(2) リーダー研修を実施し、生徒会が中心となって、体育祭や文化祭などの行事を活性化させる。</p> <p>(3) 部活動への勧誘や体験入部の工夫等によって部活動の加入率をあげ、部活動の活性化を図る。</p> <p>(4) 防災訓練や土曜講座など、保護者や近隣の小中学校、磯島地区コミュニティ協議会とのさらなる連携をすすめる。</p>	<p>(1) ア 年間遅刻者数を5%以上減少させる。(R01 1273) イ 「学 学校生活についての先生の指導は納得できる」2%増加 (R01 60.5%)</p> <p>(2) 「学 学校行事やHR活動には皆が楽しく参加している」2%増加 (R01 78.8%)</p> <p>(3) 部活動加入率2%増加 (R01 60.1%)</p> <p>(4) 地域活動参加回数5%増加 (R01 36件)</p>	
<p>実 社会人形成能力を育成するための人権教育や特別支援教育の充実</p>	<p>(1) 高校3年間を通した人権教育の推進</p> <p>(2) 高等学校支援教育充実事業のサポート校としての取組みの充実</p> <p>(3) ユニバーサルデザインの授業実践の活性化</p>	<p>(1) ア SNSなどにも対応した3年間トータルの人権教育を行う イ アンケート等により把握したいじめなどの事象に迅速に対応する。</p> <p>(2) 生活看護実習室を活用して、インクルーシブ教育をさらに進めるとともに、支援教育サポート校としての取組みを充実させる。</p> <p>(3) 生活看護実習室を活用して、ユニバーサルデザインの授業実践に取り組み、「共に学び共に育つ」教育活動をさらに推進する。</p>	<p>(1) ア 「学 学校では人権の大切さについて学ぶ機会が多い」2%増加 (R01 79.6%) イ 「学 学校は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」2%増加 (R01 75.8%)</p> <p>(2) 訪問・来校相談、研修・講演回数の5%増加 (R01 訪問・来校相談15件、研修・講演8回)</p> <p>(3) 「学 この学校の生徒たちの関係はとてもよい」2%増加 (R01 79.6%)</p>	
<p>魅力ある総合学科づくり</p>	<p>(1) 特色ある教育課程の編制を行うなど、カリキュラム・マネジメントに力を入れる。</p> <p>(2) 「魅力ある総合学科」を作って、情報発信するなど、広報活動に力を入れる。</p> <p>(3) 全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化により教職員の時間外勤務の削減を図る。</p>	<p>(1) ア 再編PTや教職員研修で、教育課程について議論をし、5つの系列を魅力あるものにする。 イ 新学習指導要領の実施に向けて、議論を行う。</p> <p>(2) ア 中学校訪問など中学校との連携を活発に行うとともに、中学校教員や保護者向け学校説明会を新たに実施するなど、広報活動に力を入れる。 イ PTA等と協力して、保護者に学校行事に積極的に参加してもらうなど、保護者との信頼・協力関係をさらに進める。</p> <p>(3) 業務の平準化を進めるとともに、全校一斉退庁日やノークラブデーの明確化により、教職員の時間外勤務の削減をめざす。</p>	<p>(1)(2) ・学校説明会の新規実施 ・令和3年度入試以降の志願倍率1.1倍以上を維持する。(R02 1.04倍)</p> <p>アイ 保護者向け学校教育自己診断の提出率の向上 (R01 46.1%)</p> <p>(3) 教職員の一人当たり時間外勤務時間数の10%削減 (R01 約40時間)</p>	